千里国際学園　中等部・高等部

「世界は千里でひとつになる　The World Comes Together in Senri」シリーズ
第８回　千里国際学園でのリサーチとプレゼンテーション
－　そのバックアップとしての図書館　－

図書館・総合科　青山 比呂乃

千里国際学園を初めて訪れた方は、まずは玄関を入ったところにガラス張りになっている広い吹き抜けの図書館があることに目が行くことでしょう。広さは約 1000 ㎡。SIS(千里国際学園中等部・高等部) ／ OIS(大阪インターナショナル・スクール) 合わせても生徒が 700 名もいない学校としては、かなり広い印象です。100 席、つまり 3 クラスが同時に図書館で授業をしていて、さらに空き時間の生徒が 1 クラス分くらい、自由に勉強ができるような空間になっています。蔵書は現在 59000 冊。雑誌も 100 タイトル以上。どれも日英が半々で、仏独中などの第 2 外国語の本や雑誌も少々あります。OIS には 4 歳から 18 歳の生徒がいるため、蔵書内容も幼児向け絵本や小学生向けの雑誌から、高校生のリサーチ向けの相当専門的なものまで多岐にわたります。

個人利用の生徒に最近特に人気なのは、モバイルラボ。館内で生徒に個人貸出しているノートパソコンは、常に 24 台がフル稼働しています。というのも、授業で多くのレポートなどのリサーチの課題が出ていて、インターネットで調べたり、ワープロやプレゼンテーションソフトを使って、課題をこなすのが、あたりまえなのです。生徒は見つけた本や雑誌も含め、プリントしたインターネットの資料などを山積みし、文章を練っていることもあれば、カードに取ったメモを元にしたり、添削されたドラフトを手に、ワープロに向かっています。全ての授業がそのような手法を取っているわけではなく、図書館で数学や英語の問題集、古文調べや漢字ドリルに取り組んでいる姿ももちろんありますが、リサーチする、プレゼンすることがあたりまえの学校です。

モバイル PC は教室貸出用も 30 台あり、PC 利用専用のラボ 3 部屋が一杯の時は、普通教室にモバイル PC を持ち込んで、生徒一人一人に PC を使った学習活動をさせることができるようになっています。プロジェクタと PC を組み合わせて、教室で生徒が自分のまとめた作品をプレゼンテーションをすることもここ数年ますます盛んです。

図書館は、こうした活動を可能にする場として、機能しています。単なる本の倉庫ではなく、読書の冊数だけを強調するのでもなく、問題集を解く自習室としてだけでなく、学園の授業・課外の活動を、そして学園メンバー個人の自由な探求を支える場として、さまざまな資料をそろえ、IT 環境を整備維持改善し、必要に応じて授業へも個人へもアドバイスをしようと奮闘しています。日英それぞれに司書教諭が 1 名ずつ、さらに 4 名の司書が交替で、毎日 8 時から 18 時までの開館を支えています。さらには、図書館上階に、学園全体のコンピュータコーディネーターと IT スタッフが常駐し、日々のトラブルシューティングから、長期的な IT 計画までを図書館と密に連絡を取りつつ行っています。

最近の IT 機器を使いこなす学習活動の大本には、こうした機器が出てくる以前からのさまざまな取り組みがあります。SIS 総合科が教科となったのは 2005 年度からですが、その中で行われている中 1 の総合授業「知の探検隊」は、1993 年度から始まった「科学者・科学史プロジェクト」を引き継いでいる、SIS が作り上げてきたプログラムです。SIS の最初の学年の 7 年生の時点で、リサーチ・スキルの訓練を一通り行い、以降の学年で課される数々のリサーチ課題に取り組みやすくしよう、というのが出発点の授業です。